

会 長 就 任 の 挨拶

社団法人日本金属学会々長 増 本 量

私はこのたび図らずも会長に選ばれ、本年1年間その重責を荷うことになりまして、真に光栄の至りに存じております。私は決してその任に適うものとは存じておりませんが、一旦お引受けいたしました上は、本会の発展に最善をつくし、責を果たしたいと考えております。なにとぞ会員各位の御支援と御鞭撻をいただきますよう御願い申上げる次第であります。

御承知のように今年には本会の創立20周年に当ります。会の活動を通観しますに近年いよいよ活発となつて参りましたことは歴然といたしてありまして、会員各位と共に誠に喜びにたえないところであります。

本会は昭和12年に創立されたのでありますが、わが友好学会であります日本鉄鋼協会はその当時は既に21周年を迎え、非常な発展ぶりを見せておりました。

当時斯学の趨勢はどうかと申しますと、今日の学術的水準から見ますれば、なおそれは遠く、隔世の感ではありますけれども、生産方面においては鉄も非鉄も漸く盛んになつた軍需工業の発展の段階にありまして、なかなかの股賑をきわめておつたのであります。

こういう情勢のもとに、鉄鋼協会は主として鉄鋼関係を取扱い、とくにその製錬に関する研究事項に重点をおいておりました。でありますから当時本多光太郎先生は、鉄鋼を除く一般金属に関する学会をつくるべきであると熱心に主張されまして、遂に多くの有力者の協力を得まして、ここに本会が誕生しました次第であります。

したがつて本会の設立の目的は一般金属に関する理論に重きをおき、学術と工業との連絡を密にし、その進歩発達をはかることになつております。すなわち両学会は各々独自の目的をもつておりますから、それぞれの途に邁進しながら相寄り相助けてゆくならば、有無相通じて一般金属学界ならびに工業界の進歩発達に大いに寄与することが出来るわけであります。日本金属学会誌の創刊にあたり、本多先生が記されました名文は長くわれわれの記憶にのこるものであります。すなわち先生は「両学会は車の両輪の如き関係を有し、いずれの一つも欠くことは出来ない」と強調されたほどであります。

かようなわけで両学会は永年協調してまいりました。とくに春秋の学術講演会も特別の場合を除いては共催して参つたのであります。会員層をみましても可成り多くの方々が両学会の会員になつておられること、また講演会開催地の御都合などを考慮いたしますと、将来ますます両学会の連繫を密にして講演会は必ず共催ということにもつてゆくべきであり、私はこれを強く推進したいと考えております。

つぎに本会の目的達成のための事業について考えて見ましょう。その中もつとも主要な事業は機関誌の発行であると存じます。

日本金属学会誌の故事来歴をみますと、これはその当時東北大学の附置研究所であつた金属材料研究所において永年発行しておりました「金属の研究」が発展したものであります。おそらくこの時代、国内に

においてこれほど充実した学術誌は稀であつたと考えられます。その優れた伝統が継承されまして本会誌は最初から学会誌にふさわしい相当立派な出来栄でありました。最近の会誌はなお加うるに編集委員会のためまざる御努力により、さらにさらに内容が充実して参りましたし、編集も大いに洗練されて参つたように思われます。とくに今日の論文はその内容において発刊当時とは比すべくもなく精細、深遠なものが多くなつておりました、しかも論文の数は昔の数倍に達しております。これはとりも直さず諸兄の研究活動のいよいよ旺盛なことを示すものでありまして、まことに喜びにたえないところであります。

また一方、春秋の講演会につきましても、終戦前もつとも活潑でありましたのは昭和 17~18 年頃でありましたが、その時期におきましても年を通じて 200 題を上下したに過ぎませんでした。しかるに戦後昭和 24 年頃からは急速に増加して参りまして、現在では年 500 題前後に達する盛況となりました。なおこの他、九つの分科会の活動も旺盛でありまして、最近ではシンポジウムが盛んに行われております。また各支部における地方講演会その他、それぞれ独自の活動も見逃すことは出来ません。

しかるところ、いとも遺憾でありますことは歴代の会長が申述べておられますように財政不如意の点にあります。本会の学術的活動はかく活潑であるにかかわらず、経済的基礎が薄弱であることは哀しむべきことであります。あるいはこれはわが国学協会の通例であるかも知れませんが、そのため会誌の頁数、したがつて一論文に対する頁の制限をせざるを得ませんために、十分に論旨を徹底させ得ないのはまことに体念の至りであります。論文の頁数の制限をやめて、十分に論旨を徹底させるためには、どうしても会誌全残の頁数を増さざるを得ないことになりまして、これに要する刊行費の膨脹は相当額にのぼります。現在においてすら会費と会誌印刷要費とは殆んど同額でありまして、その他の経費は別途の収入を企画してまかなわねばならぬ窮状にある次第であります。

また前にも申述べました通り、最近春秋の講演大会、分科会、支部などの活動も非常に活潑になつて参つたのでありますが、この方面におきましても経費不足のためにまだまだ活動に制限される点が多いためです。したがつて、本会の事業を盛んにするためには、どうしても資金を充分にする必要があるわけです。資金を増すためには御承知のように会費を増すか、広告料に頼るか、あるいは維持員の増加を図るかいずれかの方法によらねばなりません。この中比較的実行にうつしやすいのは、まず維持員の増募でありますので、理事会におきましては本年度はこの点にとくに力を入れることになつております。

なお本年は創立 20 周年記念事業といたしまして、会誌記念號の発行、金属便覧改訂版の出版、ならびに主要工業都市および支部所在地における記念講演会などを行いつつあります。関係各位の御盡力によりまして大いに成果をあげ、御期待に副いたいと思つております。

その他、学会として行わねばならぬことは多々ございますが、有力な役員会があることでありますから役員会において十分に調査検討して有効適切な計画をたてていただき、これを実行に移したいと考えております。

本会の目的であります学術と工業の発展を図るため、ますます鉄鋼協会と連繫を密にし、会員諸兄のなご一層の御協力を重ねて切望いたします。